

市内小・中・特別支援学校における読書バリアフリーの促進に関する陳情

〔願意〕

市内小・中・特別支援学校における読書バリアフリーを促進するため、市立図書館が提供するデージー図書、サピエ図書館、電子図書のオンラインサービスを学校から貸与されている一人一台の端末を使って利用できるよう、環境整備、相談体制を整えてください。

また、定期的にサービスについて学校から周知してください（福祉のアウトリーチ）。

〔理由〕

文部科学省が掲げる「学校図書館ガイドライン」には「発達障害を含む障害のある児童生徒や日本語能力に応じた支援を必要とする児童生徒の自立や社会参画に向けた主体的な取組を支援する観点から、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料を充実するよう努めることが望ましい。例えば、点字図書、音声図書、拡大文字図書、LLブック、マルチメディアデージー図書、外国語による図書、読書補助具、拡大読書器、電子図書等の整備も有効である。」

とある。

市内の中学校図書館に確認したところ、点字図書、拡大文字図書の蔵書はあるが、デージー図書のような読み書き障害に対応した環境整備は進んでいない。読み書き障害は40人の通常学級に2～3人存在すると言われている。近年、障

害に関する認知度が高まり、教科書用図書の読み上げを行う「デージー教科書」については、総合教育センターあてに多くの学校から申し込みがあるとのことである。図書についても、読み上げ機能へのニーズが多くあると見込まれる。

また、障害のある児童・生徒への支援は、学校という場でありながらも福祉の分野であり、その周知においては行政側からの積極的な働きかけが有効であると考えするため。